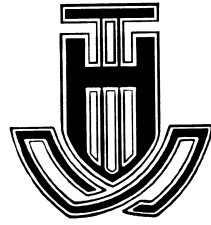


# 西高 News



平成25年3月1日発行  
西大寺高校広報室

御卒業おめでとうございます。

## 【西高は本当に最高だ！と思える感動の卒業式】



「一念、道を拓く」

校長 松本 誠一

有史以来、文明は着実に発展してきました。21世紀に入りすでに10年以上の年月が流れましたが、特にこの間、我々の生活は大きく変わってきました。その理由は世界の多くの国々が「新自由主義」という新しい考え方を導入したこと、そして情報技術・機器が急速に発展したためと考えています。

かつて未来学者アルビン・トフラーが「第三の波」で予言したとおり、世界は「産業社会」から「脱産業社会」、すなわち「情報化社会」へ移行しているのではないかと思います。

例えばエネルギーで考えてみても、木材→石炭→石油→電気→原子力と変化してきました。そのような時代に諸君は社会へ船出して行くことになります。

諸君から見れば、先の見えない時代に突入していくというある種の恐怖ににも似た思いと少しの期待感とが混ざり合った気持ちを抱いている人も少なからずいると思います。そこで、私から諸君が人生を歩んでいくための「道しるべ」にしてほしいことを一つ伝えます。

iPS細胞の発見で全世界に衝撃を与え、ノーベル医学生理学賞を受賞された「京都大学iPS細胞研究所」所長の山中伸弥先生が言われたことを伝えます。

『三日坊主はおおいに結構。それは二日間懸命に頑張ったということ。三日目に展望が開けなければ別の道へ行けばよい。そして目標が定まったらそれに向けてまっしぐらに進めばよい。日本では「直線型の人生」を歩む人ばかりが誉められる。しかし、「螺旋型の人生」でも良いと思う。自分もiPS細胞に関わるまでは、整形外科の臨床医、研究者に変わっても「動脈硬化」の研究、「ガン」の研究、それから「ES細胞」の研究ところどころ変わって来た。その結果、やっと今のiPS細胞の研究に定まった。』

まずは考えながら動く、とにかく動く、それは三日坊主でも構わない。大方の目標が見えてきたら一度立ち止まり、ビジョンを確認する。「高い塔を建ててみなければ新しい水平線は見えてこない」とよく言われる。そして、高い志を持ち、ビジョンがある程度定まればやり遂げようという気持ちを持ってその目標に向かって邁進する。そんな螺旋型の行動様式の連続が道を拓くと言うことでしょうか。

成功の条件に「VW」の二文字があるとよく聞きます。これはビジョンの「V」とワークハードの「W」のこと。長期的な展望としっかりとした目標を持ち、懸命に努力すれば、その一念は必ず叶うと言うことです。ビジョンをはっきりとさせることなしに一生懸命働いても満足のいく達成感は得られない。人生は一回限り。悔いのない人生を送りましょう。期待しています。

※ iPS細胞…人の皮膚などから採取した体細胞に特定の遺伝子などを導入することで、様々な組織や臓器の細胞に分化するように性質が変化した細胞。

# 卒業生特集

生徒会を支えてきた元執行部にその喜びを聞いてみました



「雨に耐えれば虹が見える」

前会長 3年 （岡山市立西大寺中学校出身）

人生の栄光を虹に例えるなら、その為にする苦労は雨と言ったところだろうか？  
晴れの国、岡山に生まれ西大寺で育ち18年、その最後の3年間で「西高」で過ごせて「最高」だった。西大寺高校での思い出は、これからの人生における成長と心の糧にしていきたい。高校生活は本当にあっという間だった。部活に勉強に生徒会、振り返って思い起こしてみると、どれもイイ経験をさせてもらえたと思っている。会長であった分確かに忙しかったが、その忙しさも充実した日々の中においては、とても心地いいものであった。青春の1ページを書き連ねて来た結果今では、私の青春は、広辞苑並の厚さになったと思う（笑）。

“下手の考え休むに似たり” “しない後悔よりする後悔” この二つは、私が問題に直面した時、大抵最初に出てくる言葉だ。この言葉が出てきて積極的に行動してきた自身のことは、ある程度評価したい。しかしこれは、言わば考え抜くことの放棄。直面する問題と、対峙している緊張感から抜け出すために、こうした言葉で自分の背中を押していた、だけであっただけかもしれない。別にそれ自体は悪くはない、高校生は無鉄砲な位でちょうどいいと思う。私が言いたいのは、回避出来た後悔をするなどということだ。

青春は一度きりしかない！どうせならその一回に懸けてみたい！妥協を許さず！必死に考え！必死に生きて！全力で！青春を謳歌していきたい。頑張ろう！！



「自分探しの出来た3年間」

前副会長 3年 （岡山市立西大寺中学校出身）

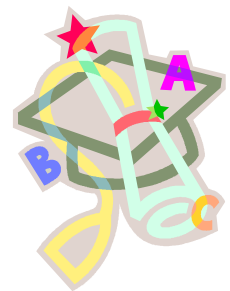
私は出身が西大寺中学校だったので、いつも間近で西大寺高校の様子を見ていました。そんな憧れの高校に入学してから3年間はあっという間でした。

入学してから驚いたことは各行事の盛り上がりです。入学してからすぐの閑谷研修に始まり、最後の秋桜祭まで、生徒会として、一学年として、クラスの一人として多くの形で参加することができました。そのため目的をもって日々を過ごすことが出来ました。

私の高校生活のなかで自分探しのきっかけとなったものが、西大寺高校のホームステイプログラムです。参加者は国際情報科の生徒が多い中、ずっと海外の異文化に触れたいと思っていたので参加しました。オーストラリアの風土、文化、英語に触れ、その広大な自然と人々の温かさに感動しました。それからは、校外でも異文化理解の活動に参加し、将来の視野がぐっと広がりました。3年生になってから志望大学を考えている時に海外進学に興味を持ち、夏休みに参加した現地学校の視察を経て、急な進路変更をしました。海外進学は金銭的にも生活面でも負担や心配が多いなか、承諾してくれた両親や周りの先生方や友人も初めは驚いていましたが目的や夢を真剣に聞いてくれて、応援してくれました。

西大寺高校での3年間はわたしにとって漠然としていた将来の自分というものをより明確にイメージできた、充実した自分探しの3年間でした。





## 「3年間を振り返って…」

前副会長 3年 (岡山市立竜操中学校出身)

私にとって、西高は大切なことを教えてくれた学校です。英語とコンピュータを主としている「国際情報科」に惹かれ、入学できた3年前がなつかしく思えます。

国際情報科は、全国でも数少ない学科であり、他の科にはない授業や行事がたくさんありました。中でもALTといく一泊二日のイングリッシュキャンプは本当に楽しいものでした。

また、部活動では陸上競技部に所属していました。私は、陸上をしていた訳でもなく、みんなで楽しく部活をしている先輩方の雰囲気に惹かれ入部しました。そんな初心者でも入りやすく、みんなが楽しめる環境を自分たちも作ろうと努め、たくさんの後輩をもちました。「最大の意地」をモットーに頑張っている陸上部ですが、個人競技がメインであるため、個人個人の目標が違い、ズレが生じることが多々ありました。けれども、たくさんぶつかりあった結果、自分自身も、みんなも成長できたのではないかなと思っています。そして現在、後輩たちが楽しく部活をしている姿を見ることができ、先輩として嬉しく思います。

3年間の高校生活を通して、私は、西高に入学し、友達や先生、先輩、後輩等たくさんの人と関わり、楽しいことも辛いことも経験することができ、周りのありがたさに気付くことができました。いまふと思うと、後悔することもあります、そのとき苦しんだ自分がいるからこそ今の自分がいます。本当にありがとうございました。

## 卒業おめでとう



## 「御卒業おめでとうございます」

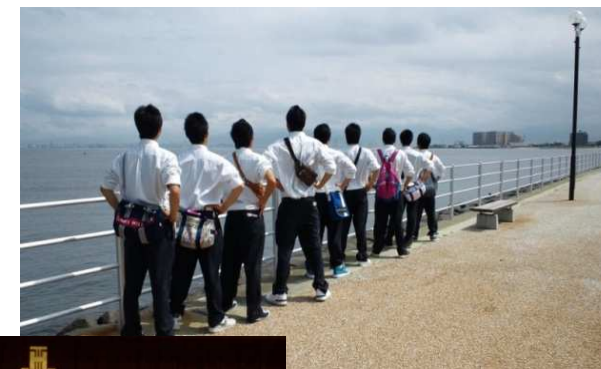
文化委員長 2年 (瀬戸内市立牛窓中学校出身)

寒さも和らぎ、南から吹いてくる暖かい風が新たな旅立ちの時を感じさせる今日この頃、卒業生のみなさん御卒業おめでとうございます。

私たちが先輩たちと一番触れあうことができたのは、放課後の部活動です。いつもテキパキと指導して頂きました。それはプレーだけではなく、うまくいかなくて落ち込んでいるときには優しく声を掛けてくださり、嬉しいことがあった時は一緒に喜んでいただき、そのような暖かい先輩方の支えのおかげでここまで私たちは成長することが出来ました。先輩方と過ごした貴重な部活動の時間はきっと私たち全員の忘れられない、とても素敵な思い出になっています。

まだまだ教えて頂きたいこと、学びたいことが沢山あるような気がしてなりません。どうかこれからも私たち後輩のために時々お力をお貸し下さい。私たちは先輩たちが残して下さった歴史と伝統を大切に、次の世代へと伝えていきたいと思っています。どうか卒業されてからも、この学校で学んだことや経験したことを活かし、それぞれの夢に向かって大きく羽ばたかれますようお祈り申し上げます。本当にお世話になりました。

## SAIKO のアルバム



〒704-8112 岡山市東区西大寺上2丁目1-17  
岡山県立西大寺高等学校 広報室

西大寺高校のホームページも  
ぜひご覧ください。

Find Your Next Stage  
at SAIKO!

